甲子園ボウルへの第一関門となる全日本大学アメリカンフットボール選手権東日本代表校決定戦準決勝・パインボウルが３日、仙台市の弘進ゴムアスリートパーク（仙台市陸上競技場）で行われ、北海道大学が９−３４で東北大学に敗れた。２０１１年に同ボウルが東日本代表校決定戦準決勝となってから、北海道代表は９連敗となった。東北大学は１２月１日、横浜スタジアムで行われる同決勝で、北海道・東北地区悲願の甲子園切符をかけて関東代表と対戦する。

２年ぶりの顔合わせとなった試合は、第１Ｑに北海道大がＱＢ茨木大輔（１年、兵庫・六甲学院高）からＲＢ中牟田晃基（３年、埼玉・浦和高）へのＴＤパスで先制したが、東北大は第２Ｑにキックオフリターンなど３ＴＤを集めて逆転。北海道大もＫ高野友陽

（３年、鹿児島・加治木高）のＦＧで追い上げたが、東北大は第３、４Ｑにも加点し、北海道大を突き放した。

先制のＴＤキャッチを決めたRB中牟田は「キャッチの後、味方ＷＲの好ブロックでエンドゾーンに走りこめた。道リーグでも何回もやったプレー」と振り返ったが、ラン、パスを合わせて３３ヤードに抑え込まれた北海道大のエースＲＢ荒山赳（４年、東京・麻布高）は「パスの落球など道内の試合ではなかったミスがポロポロ出た。攻撃リーダーとしてテンポを作れなかった」と、追加点を奪えなかった攻撃陣を反省。１年生ＱＢの茨木は「来年はもっとパスの精度を上げ、得点機をしっかりと決めきれるようにしたい」と巻き返しを誓っていた。

（北海道学連広報委員・塚田博）